

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

麦類赤かび病の適期防除について

赤かび病の防除適期は、大麦は蒴殻抽出始め(出穂期の約 2 週間後)、小麦は開花期(出穂期の約 7~10 日後)です。本年産麦の出穂期は、平年より早くなる見込みですが、播種時期や麦種によって大きく異なります。

ついては、下記事項を参考に、圃場の生育状況を確認したうえでの適期防除について生産者へ指導をお願いします。

記

1. 麦類の生育状況について

令和元年 11 月下旬~12 月下旬播きでは、大麦、小麦ともに葉齢は平年よりも進んでおり、出穂期は平年より早くなる見込みである(佐賀県農業試験研究センター、佐賀県米麦改良協会：令和 2 年 3 月 19 日付け麦づくり情報第 4 号)。

表 出穂期の平年及び前年値(過去最も早い) 農業試験研究センター

品種	播種期 (月/日)	出穂期 平年値 (月/日)	過去、最も早かった出穂期	
			産年	出穂期 (平年差)
シロガネコムギ	11/20	4/4	R1 年産	3/28 (-7)
	12/10	4/12	R1 年産	4/7 (-5)
サチホゴールドデン	12/10	4/3	R1 年産	3/30 (-6)
	12/20	4/7	R1 年産	4/4 (-3)
はるか二条	12/10	3/29	R1 年産	3/29
	12/20	4/3	R1 年産	4/3

注1)「シロガネコムギ」の平年値は過去 7 年以内最高と最低を除いた 5 年間の平均

注2)「サチホゴールドデン」の平年値は過去 4 年間の平均値

注3)「はるか二条」は前年値

2. 防除対策

- 1) 大麦の場合、葯殻抽出始め（出穂期の約2週間後）の赤かび病防除は、発病抑制だけでなくDON低減効果が高い。さらに、その7日後頃に2回目の散布を行うと効果が高まる（下図）。なお、本病にやや弱い「はるか二条」については、2回防除を基本とする。
- 2) 小麦の場合、開花期（出穂期の約7~10日後）の赤かび病防除は、発病抑制だけでなくDON低減効果が高い。さらに、開花期10~20日後頃に2回目の散布を行うと効果が高まる（下図）。開花期約10日後の散布は発病抑制、開花期約20日後の散布はDON低減効果が高い。なお、本病の発生が多いパン用コムギについては、2回防除を基本とする。
- 3) 出穂期は今後の気象や播種時期、麦種によって異なるため、必ず各圃場ごとに出穂状況を確認したうえで、適期防除に努める。
- 4) 赤かび病防除薬剤の効果は、予防が主体である。このため、散布時期が遅れないように適期に薬剤を散布する。
- 5) 薬剤防除にあたっては、農薬使用時期、使用回数等の使用基準を遵守する。

赤かび病の防除適期

麦種	予想される赤かび病の発生量	全茎数の40~50%が出穂した日	出穂期 0	穂揃期 +5日	全茎数の80%が出穂した日	+10日			+15日			+20日			+25日			+30日		
						開花期			葯殻抽出始め											
小麦	小~並発生					←→			←→			←→			←→			←→		
	並~多発生					←→			←→			←→			←→			←→		
大麦	小~並発生					←→			←→			←→			←→			←→		
	並~多発生					←→			←→			←→			←→			←→		

- 注1) 出穂期とは全茎数の40~50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。
 注2) 小麦の開花期とは40~50%の穂が開花した日。
 注3) 大麦の葯殻抽出始めとは、50%以上の穂で葯殻が見え始めた日。
 注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法（収穫前日数）に特に注意する。
 注5) 矢印は防除適期を示す。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45 5085